（九日ノ休刊）

磐城新聞

休刊（大祭日・第一第三日曜）
定價（壹部二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（二行五十錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　渡沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社　電話五六四番

小說

死を超ゆる者

(83)

三上於莵吉作
布施平八郎畫

蒼白い屍（五）

そして窓ぎはへ行つて外の暴風の暗をちよいと眺めたが、今度は靜かに急に憶な足取りでまたとき子のに寄つて來た、彼は彼の女の傍に腰をおろして暫く氣にそげやつれたやうなとき子の頬の邊りをぢつと見詰て居た。彼は而し相手の肩にさはらずに、妙に力のぬけた聲で言ひ出すのであつた、

「だがなあ、とき子、俺は大そう亂暴なことを言つたが、それを言ふのもつまりは眞實にあんたがあんまり何もつれないからぢや、わしがどれほどあまたを好きかよく知つて知り拔いて居る筈だ。わしは、たゞむつとして亂暴なことをいつて了つたが、これといふのも、つまりは…あんまりあんたが好きで好きでたまらんからだ、兎角人間と云ふものは愛の平均を失すると俗に云ふあわびの片想ひでい〱ちれつたくなるもので遂には言ひたくもない心にも無い作つた不平を云ふものだ、而しあなたも自分の境遇を自覺してまたこれからわしを怒らせないやうにしてもらいたいものぢや好いかな、とき子」

さういひながら彼は、ぢりぢり彼の女の側に近寄つて來るのであつた。彼の手は再び彼の女の細い腕をつかんだ。

「とき子。もう良いから心配するに及ばんよ、俺が確、悪かつた、つい心にも無い悪口をお前にあびせかけしさぞかし前は氣に止めんであらうが、これは男として誰しもの言葉だ。俺がお前をすいて居るだけでそれだけ俺の心はいつもお前の仕打をいろ〱老へて居るのでちつとは俺の心も察して居て呉ねばいかんぞとき子、心配することはないあんたは眞實に俺の大切な妻だ、あんたが心配して居るだけ俺も心にかゝつて心配でならん、あゝ悪かつた許してくれとき子」

と彼は急に態度を改めるやうにして例のにや〱笑ひながら、頻りと今度は反對に彼の女の御機嫌とりにつとめ出した。而して近寄りにかゝつて身は平身低頭せんばかりであつた。

けれども、とき子はぐだりとして其腕はぬけんばかりに力なく垂れた。彼の女は拒む力をも失つて居た。今や暗い感情のために魂を燒きつくされた蒼白い屍であつた。

暴風は外で吹へつゞけて居た。雨は前よりも一層凄布のやうであつた。電氣は今にも消ねさうに細くなつた。

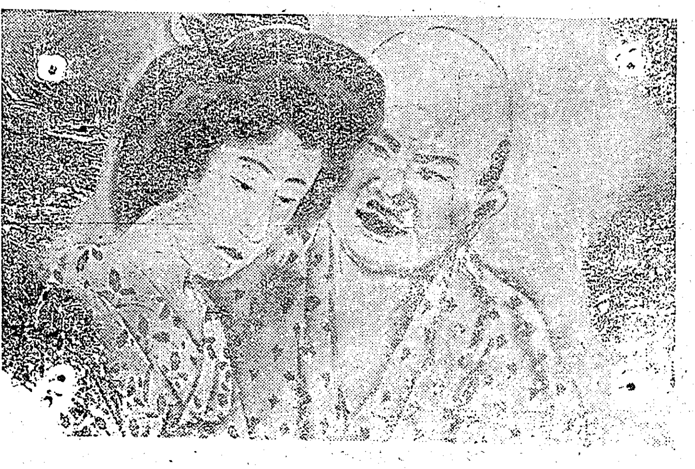
神よ、この暗き暴風の夜の果敢なき人の子を守らせ給へ！。

× × ×

眞夜であつた、暴風はなは止まなかつた。

とき子は寢もやらず我部屋に起きて、硝子窓の外をじつと眺めて居た。

何も見ゑなかつた。たゞ闇だけがあつた闇も底にわめき、叫び泣き、悶ね折々から〱とこう笑し、また深く咽び泣く何ものかゞ居た、彼の女は墨より濃き闇を眺め、不思議な強猛な海の一大奏樂を聞いた。けれども折々彼の女の眼は闇を貫いて、遠い海面を旋轉する青き凄しき光りを瞬めた……。



暦の吉凶日

舊暦八月八日
新暦九月十日

▲一白　目に見へても手に入ること遲し急ぐな▲二黑　誠意十分なれば勝利の榮冠を握る事を得る▲三碧　何事も物足らぬ思ひに暮るゞ日焦るは大凶▲四綠　先陰は人を待たず午後あることを賴む勿れ▲五黃　鎭靜より發動に移り行く隆運の日大に勵め▲六白　物事行詰まりを生じ易し急げば急ぐほど凶▲七赤　不圖して怒氣を生じ出來に近く事を破る▲八白　足踏を定めて根强く進むときは事成るべし▲九紫　元氣を充實し心を固めて急がずば吉日たり

相帽と冬帽
モダーンな若人向
スマートな紳士向
東帽製ファー　七、八〇
イタリー製ロアプ　七、八〇
ウール　一、五〇ヨリ
につるや
平四丁目

内科診療
消化器病科　呼吸器病科
小兒内科　一般内科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊内科醫院
電話一六一番

釀造元
清世界
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
吉清水屋
小野晋平
電話六番

平町田町
高久病院
電話五一〜三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

えらが染
元祿（げんろく）
發賣元
株式會社朋友商會

△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇
平町五丁目角
大販賣店　**山野邊藥局**

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…
電一二四番

平町紺屋町
吉田眼科醫院

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御教授いたします。お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

内科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
外科、梅毒、淋疾　皮膚病　市原三三男
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）
電話一二四番

毛糸
本年は昨年より御安う御座います
毛糸見本帳進呈
一オンス　十五錢　十八錢　二十五錢
（中細・極細・スコツチ等……澤山入荷致しました）
平町田町　藤田女學校隣
ハシモトヤ糸店

外科一般（入院隨意）
内臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

安全第一
諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモットートスル弊店ヲ精ニ御利用クダサイ
營業課目
勸業債券
復興債券
公債其他　兩替　金融
質物一般　取扱
多田井商店
平町大工町

夜間診療
胃腸
内科　十二指腸虫病　專門　内科部
梅毒
淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇七番）

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同優等賞受領
鹽屋
醬油釀造元
山崎合名會社
電話一〇番

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

美味滋養
蜂ブドー酒（ハチ　シュ）
不老長生の若返り法
即ち食慾を増し消化を助け血を増し肉を肥して元氣旺盛を增進する蜂ブドー酒の食餌常用こそ最も手近な不老長生の若返り法！

レコードハ此のマーク！を
HIS MASTERS VOICE
TRADE MARK REGISTERED
店員募集
肉聲のビクターレコード
販賣店　**曾田時計店**
平町四丁目（電話三六三番）

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は**三四三番**　サシミ

神谷分場を廢止し水産學校を建設

急速實現に猛進する

石城沿岸民運動

石城郡の水産業は逐年著るしき發展を見今や年産三百萬圓に達し尚ほ益々發展の可能性を有してゐるけれども漁業に要する專門の教育機關がなく從つて其の方法は依然昔し乍らの古い漁師の域を脱せざる事が發展を阻害する重大な原因であるところから石城郡に縣立水産學校建設の急を叫ばれて來たが小名濱、江名町、豐間、四倉各漁業組合と町村長は縣町村長石城支會を動かし近く具體的運動方法を講ずることとなつたが郡町村長支會の大勢も賛意を表し若し縣が經費の關係上實現し得ぬ場合は開設以來直接間接的に何等の貢獻を認め得ず殆むど無用視されてゐる縣水産試驗場石城分場を廢止しても是非とも水産學校の設立を急速實現せしむる樣努力すべく意氣込みで農試分場廢止と水産學校設立問題で近く相當の一と騷ぎが持ち上るものの樣に觀られてゐる

醒めて吃驚

忘れた六百圓

平町三丁目骨董商平野井子之松は現金六百餘圓在中の財布を同町料理店一瓢にて飲酒中何者かに窃取されたと訴へ出たので平署では最近にない怪事件として嚴重調査したが何の手がかりもないので何處にか置忘れたのではないかと子之松に注意した處七日夕刻自宅の片すみに置いてあつたのを發見したが右はでい醉の結果てつきり盗まれたものとさつ覺を起しあわてゝ訴ひでたものと判つた

妻と子を伴れて二十男の問ひ

植田から遙々山形まで

警察に救護願ひ

石城郡植田町字金畑町元運送店員松崎松太郎(三五)は妻みき(三〇)及び兩人の子供を引連れて郡山市某カフエーにコックとして住込んで辛くも暮してゐたが松太郎は折惡く本年二月頃病氣に罹り遂に失業するに至つた其後職を求むべく妻子を連れて福島市に來り彼方此方と職を探し廻つたが不景氣のことで少しもなく宛どもなく八月下旬山形市に辿り付いたが此處に求むる職はなく今は妻を實家に歸さねばならなくなつた　然し懐には一文の金もなく松太郎は失業地獄をしみ〴〵と感じ失神したかの如くなつてるので之れを見兼ねた妻は二人の子供を連れ五日午後山形署を訪づれ「私は郷里石城に歸りたいのですが一文の金もありませんから助けて下さい」と願ひ出た署でも大いに同情しみさには汽車賃を與へて歸國させることとし又松太郎は佐藤宗治氏の雇人に使つてもらうことになつた

社會廓淸の力（九）

―好間青年分團の席上講演要旨―

大和田豐吉

神武天皇の勅語を讀んで見ませう

其時に運は鴻荒に屬し時は草昧に鍾れり故に蒙くして以て正を養ひ此西偏を治らす　皇祖皇考即ち神即ち聖にして慶を積み暉を重ね多く年所を經たり云々

を斯う有りますが此中に蒙養正」「積慶重暉と此三事項に解釋して有りますが其三事項は又更に神武天皇の勅語に彼地には必ず當に以て天業を恢弘し天下に光宅するに足りぬべし蓋し六合の中心か

と又斯う有りますから蓋し天照太神の御神勅の萬世一系の根本地は我が大日本帝國で此地に居て天業を擴め延べて世界の中心に居て天下に號令するに足る土地であるとて仰せられたのであります

そこで養正とは如何なる事かと之を研究しますれば正を養ふと云ふ事で正しき事柄へは正當正義などすべて邪と反對なる事柄を實行する事を云ふのであります　正は一に止まるにて正と云ふ文字を分解すれば一に止まる之を合はすれば正になるのであります故に正はア、しても斯うしても善いと云ふ事では無いのであります必ず爲すべき事は一に止まるのが正と云ふのであります

そこで我が國の天皇陛下は元來が正に止まる此正を養ひ來つたのが太古創業からの習慣で世の中は未だ開けずすべて荒ぶる事のみ多く人の智識は暗くして起居動作さへ如何にして宜しきやら不明なる彼の日向の高千穗の峯に御住居に爲つて居る時よりこのお巳を正して人を率ゐてすべて正しく以て治め來つたと云ふのだから我が國の古き道は正道を實行するのであります吳々も申しますが我が國の人道に

太古神樣方の行でなさつた神道即ち惟神の道を申すので神道と云ふのも人道と云ふのも皆同一のものにて古來神樣の行ひなさつた道即ち「神ながらの道」を云ふのであります故に天皇陛下の行ひなさつた道は即ち我々人民の行ふべき道で行ふべき道に種類あるのでは無い　故に太古時代は申すまでも無く上に立つ　下も下に居る我々人民の祖先も皆其德が同一で誠に正しき道を行ひに爲つて居る是が我が國体の君民同治と云ふのでありまする譬へば

明治天皇陛下の御製に

ちはやぶる神の心を
心にしてわが國民を
治めてしがな

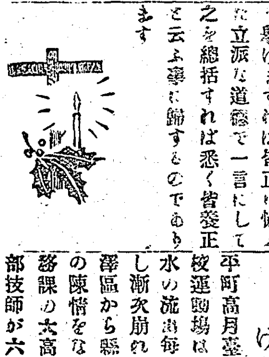
と神の心即ち惟神の道もて我が國民を治めんものと春夏秋冬又晝となく夜となく大御心を勞せらるゝかと思へば又　源實朝卿の

山はさけ海はあせなん
世なりとも君に二心
我あらめやも

と君は民を思ふて如何にかして

善政を施さんかなと

宸襟をなやまし給ふ御君あれば如何にかして純忠を盡くさんかなと中心を惱まし給ふ臣民の多きは古より我が國体の然らしむる所なれば敢て憂ふるに足らざるものゝ如きもきもとて又西洋思想の流れつゝある今日左傾思想の甚だしき潮流る膨湃して推し寄せ來るやも知れず現に昨年來の共産主義者の捕縛の如きは其である實に憂ふべきは不逞極まれる共産主義者等の行動でありまして嚴重にも警戒を加ふべきであります要するに是は我が國君臣の道に就いて一例を申したまでに過ぎませんが其他我が國に行はるゝ道德に就て例證を擧げますれば皆正と協ふた立派な道德で一言にして之を總括すれば悉く皆養正と云ふ事に歸するのであります



九對六で磐中惜敗

きのう福師さに

第八回縣下中等學校体育大會は八日擧行されたが福島師範對磐城中學の野球戰は高商グランドに於て午前八時より小森(球)山本(壘)審判のもとに磐中先攻で開始午前十一時十五分九Ａ六で磐中惜敗した

	一	二	三	四	五	六	七	
師範	1	0	0	1	3	4	A	9A
磐中	0	1	4	0	1	0	0	6

元商業學校に平役場を移轉

新築も出來ぬ昨今の折柄

最も便益な方法

平町に於る役場新築は緊縮の崇りを受けて二、三年辛棒する事となつたが現在の廳舍は狹隘な上に腐朽其極に達してをるため事務の能率は甚だしく殺減されてゐるので到底新築まで現廳舍にあつて執務する事は危險であるばかりでなく困難であると言ふ意見か町議並びに吏員間に唱へられた更に一部少壯議員は元商業學校こそ第三小學校落成と同時に不用となるものであるから緊縮の趣旨を沒却せざる範圍內に於て同校を役場に改築してそれを使用することこそ平町として採るべき最も良い手段であると硬論を唱へてゐるので町當局でも新築については二の足を踏む事となつたが平町としては役場新築は町財産の處分によらなければ着工出來ぬ程の狀態にあるを結局元平商校の改築により新廳舍が實現するのではないかと見られてゐる

赤心堂發展

更に內容の改善

平町田町赤心堂病院では院務の擴張に伴ひ新たに外科並びに一般婦人科に醫學士海津俊一氏とエックス光線科に以前同病院で患者に信望あつた木下寅一氏を聘し內容の刷新改善を加へます〳〵好評を博してゐる

漁業の獎勵金

石城郡江名町澤辰之助氏は今回縣の遠洋漁業獎勵に基き鮪、鰹、秋刀魚等の遠洋漁業をなすため西洋型鰹漁帆船(第福丸)五十三噸(二[illegible]馬力)を新造することになり五日縣經由漁船獎勵金の交付方を農林大臣に申請した

日掛の金時計で女郎を買つた男

人力車立場の主人から

詐欺の告訴提起

平町紺屋町四人力車立場生田目義雄(三三)は元挽子愛知縣碧海郡下鄉村字知居谷澤銳治(三四)北海道札幌琴似六の一八八秋山不二三(三二)の兩名を相手に五日午後六時平署に詐欺の告訴をなした理由は兩名は本年四月上旬義雄の世話で各々金側時計並に金指輪一個宛を日かけ金三十錢の割で買受ることになり銳治は十八圓五十錢の時計と十二圓五十錢の金指輪を不二三は二十八圓八十錢の時計と二十五圓二十錢の金指輪とを義雄から受取つたが兩名は揃ら八月廿五日平町錦田遊廓　右の時計と指輪をかたに女郎買をして無一文となつたまゝ逃走目下前記の源籍地に居りこれがため義雄に對し銳治は代金十二圓五十錢不二三は二十圓きり拂込をなさいと言ふにある

平署移轉

演武場と倶に

來る十二日に

平署が元郡役所に移轉する事となり改修工事も既に終つたけれども經營その他の關係上延引されてゐたが一切の準備整つたので來る十二日全部移轉に決し演武場も今月中に移轉濟みの筈である

小學教員辭令

石城郡湯本校訓導
安藤　力
任同郡赤井第一校々長
同郡赤井第一校々長
鈴木佐四郎
任同郡大野校々長
同郡大野同
八幡　莊藏
同郡内郷第一同
菅野　末治
任同郡勿來校訓導
石川郡淺川校訓導
佐藤　淸
任同郡大浦校同
双葉郡浪江校同
井戸川マス
任同郡内郷校同
相馬郡福田校同
任同郡湯本校同
岡本　修一
石城郡内郷校同
志賀　ナイ
任同郡平第二校同
同郡湯本尋常校同
齋藤チエノ
任同高等校同
同郡湯本高等校同
小石　ハル
任同尋常校同
同郡勿來同
多野　重知
任同郡小名濱校同
同郡勿來校同
吉田　功
任同郡内郷第一校同
同郡湯本校同
草野　與俊

磐城訓盲院

縣に移管陳情

平町磐城訓盲院は明治三十七年日露戰爭記念として創設され大正十二年財團組織となし維持資金二萬餘圓を有し現在三十三名の生徒を收容してゐるが私立では完全なる教育が出來ないからと五日理事長から設備資産一切をあげ縣に移管したいと知事に陳情書を提出した

五尺高の扇の的を船の中から競射

那須與一の琵琶歌も

鮫川の船中大弓

石城郡鮫川弓道會主催勿來弓道倶樂部香風會後援の船中大弓會は來る十五日午前九時半鮫川橋下集合一同乘船で地曳網に興じつゝ河口に下り午前十一時より用意の小舟二艘に五尺高さの扇の的を揚かげ樂船より一人二本宛を競射し命中の合圖に法螺貝を鳴らし餘興の琵琶「那須の與一」があり往古へ屋島の戰をしのばせつゝ船中で中食を濟まし上陸後五尺的の三十三間の遠矢の競射あり更らに地曳網に移り捕魚の賞與あり歸帆の豫定であるが會費は一人壹圓で一般觀覽者も歡迎し申込は鮫川弓道會及び勿來町香風會であると

岡本家葬儀

十日三時告別式

磐城炭礦の相談役で糧食の一手販賣人なる土浦町岡本儀兵衛氏令閨くに子夫人は病氣靜養中六日午前十時十五分永眠、行年四十九歲夫人は眞壁町素封家潮田家に生れ岡本家に嫁して二男一女を擧げ、內助の功尠からず又一面家庭にありては專ら子女の教養に努め良妻賢母として譽れ高く夫君儀兵衛氏が關東の代表的實業家として、今日を在らしめたるも夫人の力に負ふ處多く因みに葬儀は來る十日午後一時から三時迄の間自宅に於て告別式を執行すると

仙臺軍を迎へて平の卓球試合

伏見町長の鮮かな試球式

決勝に入らず中止

既報——仙臺對平の卓球試合は昨八日午前十時より常磐銀行支店コートに於て擧行試合に先ち仙臺卓球協會長小林浩氏へ　レセーブにて伏見平町長　鮮かなる試球式があつた入接戰の試合結果左の如し

（仙臺）　（平）
稻村……浦三○
○星……菅谷
菅野……松田○
翁……大坪○
○林……志賀
氏家……山田○
菅原……山森○
○加藤……川角
○小林……丹野

優待戰

星……三浦○
○林……松田
○加藤……大坪
小林……山田○
林……山森○
○加藤……三浦

以上の樣な接戰を續けて仙臺軍は加藤平軍は山田山森二人を殘して決勝戰に入る筈であつたが仙臺側の歸りの時間の都合で午後二時中止した

磐中校庭の土砂流出

けふ實地調査

平町高月臺の縣立磐城中學校運動場は土盛り場所が雨水の流出毎に土砂が流れ出し漸次崩れて來るので胡摩澤區から縣に徹底的改修方の陳情をなしてゐたが縣學務課の太高屬土木課の目下部技師が六日來平實地調査を行つたから近く改修工事が行はれるであらうと

神土氏長逝す

內郷村磐城炭礦勞務課主任神土七郎氏は急病にて去る七日死去したが同氏は明治大學卒業後同礦に入社し勞動方面を大いに研究して現在は主任を務め社內の改善を圖り將來を囑望されてゐた享年三十八才で不慮の死を惜まれ、葬儀は來る十日午後四時自宅出棺惣善寺に於て告別式を執行する筈

平署長の昇叙

平署長荒井市太郎氏は此程正七位勳八等に叙せられたが判任官中に於ける最高昇叙であると

伏見町長出福

平町長伏見彥衛氏は九日福島市に開かれる公私經濟委員會に出席の爲め九日午前九時にて出福した

錦消防組頭

山崎登氏に辭令

石城郡錦村消防組後任組頭は八日附を以て山崎登氏に對し歌川警察部長より辭令を交附された

錦村一戸燒く

石城郡錦村字中田馬場助川初吉(七六)方から八日午前十時發火し居宅半燒。物置を全燒せしめ漸く鎭火した損害約三百五十圓原因は植田署目下取調中であるが失火らしい

營業種目
內地材
材木各種、[illegible]柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話　三三五番

外科
一般外科
泌尿科
婦人科
醫學士　海津俊一
X光線科
主任　木下寅一
院長　新妻由五郎
赤心堂病院
平町田町　電四七五

磐城炭礦勞務課主任
神土七郎君　急病にて去る七日死去せられ來る十日午後四時自宅出棺惣善寺に於て告別式相營まれ候生前辱知諸君に謹告仕候

九月九日
石城郡內郷村
磐城炭礦
勞務課

妻くに儀病氣の處本日午前拾時拾五分永眠致し候間此段謹告仕候

追而拾日午後一時より仝三時迄の間自宅に於て告別式相營み申候

昭和四年九月六日
茨城縣土浦町
岡本儀兵衛
男　岡本英一郎
親戚總代　男爵　鄕誠之助
友人總代　淺野總一郎
阿部吾市